

中学校再編について

問合せ先 学校教育課 学校教育係

☎090-9200

Vol. 8

新中学校の校章

校章選定については、生徒一人ひとりが下田市に誇りを持つとともに、未来の下田を担う人材の育成を目指し、また地域から愛され親しまれる中学校になることを願い552作品の中から次のデザインに決定しました。



4 中学校の伝統を受け継いだ校章

伝統を受け継いだデザイン

新中学校の校章デザインは、中心に描かれた3枚の葉は、稲穂中学校の校章に描かれている稗の葉を、上部に描かれた稲は、稲生沢中学校の校章に描かれている稲穂の形を用いています。円の左右から上に向かって波打つ6つの形は、下田東中学校の6地区を表す形を、二重の円は下田中学校の校章の舵輪を用いており、始まりも終わりもなく途切れないことを意味しており、既存4中学校の校章の要素が盛り込まれたデザインとなっています。

新中学校の部活動

部活動については、次のとおり15部活動を設置します。今後、国が進める休日部活動の段階的な地域移行などについても協議してまいります。

運動部

- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 男子ソフトテニス部
- 女子ソフトテニス部
- 男子卓球部
- 女子卓球部
- サッカー部
- 軟式野球部
- サーフィン部

文化部

- 吹奏楽部
- 美術部
- 総合文化部

地域部活動

- 地域人材 地域団体等が運営主体となつて活動する学校部活動に準ずる活動

- 競走部（短・中・長距離陸上競技に限定）

新中学校エンブレム・ロゴ・デザインについて

制服エンブレム

校章をリファインしていただいた静岡大学教育学部伊藤文彦教授と伊藤研究室に全面的なご協力をお願いいただき、小中学校の図工美術教職員及び教務委員会事務局によりエンブレム・ロゴ・デザインアイテムを制作し、次のデザインに決定しました。未来の下田を担う人材を養成する、新しい下田中学校やそこで学ぶ生徒の姿をイメージしたエンブレムのデザインです。



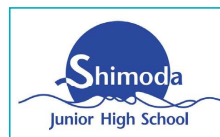
ワッペン

ジャージ・体操服

エンブレム・ロゴが入ったジャージ・体操服も、4月から入学する生徒から採用されます。現在の中学校1年生、2年生は現在のジャージ・体操服を使用します。

新中学校開校までのスケジュール

時期	内容
3月18日(金)	修了式・卒業式
3月23日(水)	閉校式(4中学校) 校舎一般開放(4中学校)
4月12日(火)	竣工式 新年度準備 会場準備
4月13日(水)	開校式・始業式・入学式 開校式にて校歌披露



背面ロゴについて



下田の海から昇る日の出が中央に配置され、波部分は「うみ・やま・こころの旋律」をテーマにしている

下田中学校校歌

作詞・作曲 ミマス

- 一 青く美しき われら下田の海
清き山川 恵みにあふれ
寝姿山に 四季の息吹吹えて
いずる理想を 空に掲げん
友よ学ぼう 黒潮に夢乗せて
いつか船出を 祝う日のため
ああ 三年を ともに憩う港
誇り気高き 下田中学
- 二 花と歴史は わが町に開きて
満ちる希望に 明日は光る
入江のように 寄する波通えて
岬のように 世界を目指せ
友よ語らう ふるさとの幸せを
いつか我らが 築く日のため
ああ 三年を ともに育つ港
誇り気高き 下田中学



市ホームページ 市YouTubeチャンネル

下田市立下田中学校のあり方について

下田市教育大綱の理念 下田に誇りを持ち、未来を切り拓く志をもった人

下市内7小学校の子どもたちが下田中学校に集結し、開国のまち下田の生徒として地域に生まれ、「これからの社会を生きる力」を備えるべく日々精励する。そして、一人一人の将来を切り拓いていくため、多くの体験や学びを積み重ねながらそれぞれに潜在するよさや可能性を見出し自分の未来を創り上げてほしい。自分の未来のために、何事にも果敢に挑戦し、自己の可能性を大きく開くために根気強く勇気をもって取り組む姿を期待する。そのためには、他の人の立場や考え方を理解しようと努め、支え合える思いやりや真心のある温かな生活環境が必要不可欠である。生徒一人一人が自分の未来に向かい、誰もが思う存分に力を発揮し志を抱ける学校でありたい。

学校教育目標 「自ら学び 睦まじく 共に励む」

「自ら学び」

教科等、諸行事、諸活動、生活、すべてにおいて問題意識、課題意識を持ち、自分の事として捉え積極的に解決に結びつけようとする姿勢を求めたい。授業では、これまでの学習指導要領に則って積み重ねられてきた学びを大切にしながら「主体的・対話的で深い学び」を意識していくものとして自ら学ぶ姿を追求する生徒を育成すべく教師としての働きかけも求められる。学びに向かう姿勢として、個人の考えや気付きをもちつつ、周りとのかわりも大切にさせたい。

「睦まじく」

420余人の環境で、優しさや思いやりを決して忘れず、友達や職員とのかわりを大切にさせたいと願う。たくさんの目が集まる、転じて「親しくする」「仲良くする」という意を盛り込んで、互いに支え合える土壌をつくることで人間形成の土台にもなりうる。知的・自閉情緒の特別支援学級がそれぞれ開設される（通級指導教室新設も視野に入れ）ことを最大限に生かし、さらに子どもたちに睦まじい思いやりのある姿を求めたい。

「共に励む」

様々な角度から体力（精神面も含めた人間力）をつけ、自ら進んで鍛えようという思いを抱かせたい。体力がつくと、あらゆる活動に良い影響を及ぼす。粘り強さや根気強さに欠ける子どもが増加している実態からも、自ら自分を追い込む体験の機会を教師が意図的に設定したり、生徒自身につくらせたりしたい。指導の見通しをもったうえで子どもに任せるプロセスは自己を追い込む場面づくりにつながる。指導の見通しをもち、任せて見守り、必要に応じて指導する場面設定を意図的に仕掛け、自己を追い込む体験を多く積ませたい。